



2025年 11月号 (2025.11.13 発行)

全国福祉保育労働組合東海地方本部  
〒456-0006  
名古屋市熱田区沢下町9-7  
労働会館東館405  
TEL 052-881-2971/FAX 052-881-2998  
E-mail fukuhotk@gmail.com  
発行責任者/大川 彩子



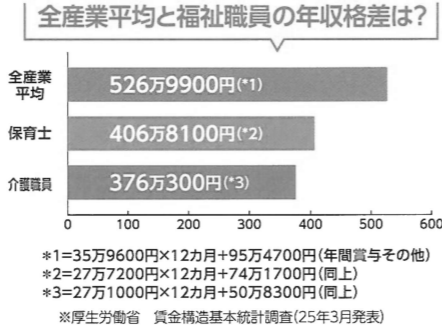
HP, 各種SNSは  
こちらから



秋から福祉保育労「産別署名」スタート！  
福祉保育労では、毎年国会請願署名にとりくんでいます。今年の国会請願署名は「福祉職員の賃金水準をすみやかに全産業平均に引き上げ、職員を増やしてください」というタイトルです。この国会請願署名を産別署名と呼んで10月から取り組みをはじめ、来年の5月までとりくみます。

産別署名「スタート」  
産別署名は「福祉職員の賃金水準をすみやかに全産業平均まで引き上げ、仕事への誇りと生活の見通しをもつ働き続けられるようにしてください。」です。厚労省の調査では主要企業の25春闘での賃上げは1万8629円、福祉保育労の25春闘の平均妥結金額約1万2千円と、企業の賃上げに追いついていません。そもそも全産業平均と保育で約5万、障害・

請願項目①  
福祉職員の賃金水準を全産業平均に引き上げを

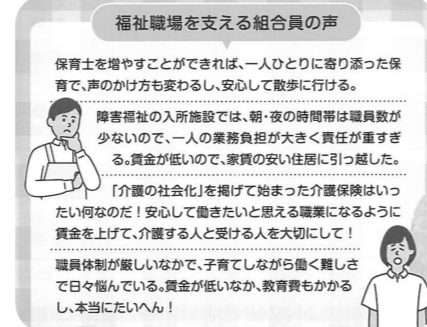


高齢で約8万と格差があったにもかかわらず、さらなる格差が生じています。専門性に見合う賃金はもちろんですが、まずは全産業平均の年収まで引き上げを求めていきます。

請願項目②  
職員・利用者を守るためにも配置基準の改善を  
請願項目の2つめは、「利用者処遇の向上と、福祉職員の休憩・休暇・勤務時間を保障するために、職員配置基準を引き上げて、常勤職員を増やせるようにしてください」です。保育でいえば最低配置基準の改善はすすんできましたが、休憩・休暇取得や勤務時間の確保などは現場任せで課題が残ります。障害・高齢では、職場の非正規化がすすみ、実践を検討することや、職員の休暇が保障できていない状況です。10月からは改正育児介護休業法の「3歳から就学前までの子を育てる親の柔軟な働き方」がはじまりましたが、ギリギリの人員のため、休める環境になく、退職や非正規雇用に転じるケースがおきています。

このような状況では、誇りをもって働くこと、長く働いて専門性を磨くこともできず、経験が浅いなかで責任ある立場になり退職につながるなど悪循環のままです。だからこそ、今回の産別署名をきっかけに、身近な福祉保育職員・保護者などに現場実態を伝えながら署名に取り組み、賃上げ・職員増を大きな声にしていきましょう。昨年度は全国7万5172筆(うち東海2万421筆)、紹介議員は113名(うち東海6名)でした。今年こそ国会での議論につながるよう、1人100筆の署名達成をめざして、とりくんでいきましょう。

今年こそ3万筆を超え、国会の議論につなげよう！  
このような状況では、誇りをもって働くこと、長く働いて専門性を磨くこともできず、経験が浅いなかで責任ある立場になり退職につながるなど悪循環のままです。だからこそ、今回の産別署名をきっかけに、身近な福祉保育職員・保護者などに現場実態を伝えながら署名に取り組み、賃上げ・職員増を大きな声にしていきましょう。昨年度は全国7万5172筆(うち東海2万421筆)、紹介議員は113名(うち東海6名)でした。今年こそ国会での議論につながるよう、1人100筆の署名達成をめざして、とりくんでいきましょう。



風光  
〜或る執行委員のつぶやき〜  
私は昔から、のんびりと好きな場所を巡る時間が好きでした。京都に住んでいた頃は、休みの日になると寺社仏閣を歩いてまわり、静かな空気の中で気持ちを整えることが日常でした。歴史のある場所を訪れると、心が落ち着き、帰る頃には不思議と軽やかな気分になっていたんです。そうした時間は、自分にとって大切な「ひと休み」になっていたように思います。  
当時はスーパーカブに乗り、自然豊かな道を走ることも楽しみでした。季節ごとの風の匂いを感じながら走り、途中で見た小さなカフェでコーヒを飲みながらゆっくり過ごす時間が好きでした。今でも、自分でコーヒを淹れ、その香りを味わいながら静かに過ごす時間を大切にしています。  
石川県に住んでいた頃は、車で自然や温泉を巡るドライブが中心で、ゆったり景色を眺める時間が心を整えてくれました。ツーリングとは違いますが、また別の良さがあるように思っています。  
そして約2年前に名古屋へ引っ越してきました。にぎやかな街ですが、少しずつ落ち着ける場所も見つかり、新しい楽しさも増えました。これからも、自分らしく過ごせる場所や出会いをゆっくり広げていきたいと思っています。  
ペンネーム:よしぞう

## 地本カルトクイズ

【第60回カルトクイズの正解と当選者】

～正解～

- 1問: 新たな執行委員長は 正解: みなと福祉分会大川さん  
2問: 高山支部でとりくむ上映会の映画のタイトルは? 正解: 世界一すてきな僕たち私たち  
3問: 原水禁世界大会の参加人数は? 正解: 6人(広島・長崎同時開催のため)

～今回の当選者～

池内わらべ分会岡本佳苗さん、どんぐり保育園分会山森藤子さん、清明山保育園分会石堂友梨さん(今回は13名の応募!)

～応募者の感想を紹介します～

大会に参加することができなかったのですが、紙面の発言集を読んで会場の温度感が伝わってくるようでした(きたちくさ分会 海老原さん) / 実際に被爆地を訪れた人の体験や思いに心動かされました。戦争や原爆の恐ろしさは現地で直接見て、感じることでより考えさせられるものがあると思います。報告者の方々の言葉の重みを幹事、私自身もできる形で平和を考えたいと思いました。(清明山分会 梅村さん)

【今後の重要日程】

- 11/15-16 中央春闘討論集会 @東京(エッサム神田2号館)  
11/16 保育大集会(パレード) @東京(新宿中央公演出発)  
11/19 対話night☆ @ZOOM 19~20時(予定)  
11/23 名労連準備会 @労働会館 10~12時(予定)  
11/28 秋闘連続講座2回目 @労働会館+ZOOM 19~20:30  
12/6 岐阜県労連春闘討論集会 @岐阜教育会館  
12/7 愛労連春闘討論集会 @刈谷産業振興センター

1/8 旗びらき@労働会館東館

【編集後記】  
新年度になり、執行委員・機関紙編集委員も新体制となりました。改めて機関紙は、「組織がどんな活動をしているのか」「東海地本の組合員がつながる・交流する」ものです。どうやらみんなに大切にしたいこと、組合員同士の顔がつながり、一緒に組合活動がうれしいね!仲間がいるってうれしいね!と感じてもらえる紙面紙になるか、悩みながら編集作業にあたっています。

業にあたっています。  
今月号はどういう記事を書こうか...と悩まされたが、考えはじめるに「あれもこれも載せたい」と欲張る心が...「笑それだけ東海地本の仲間がいっぱい大事な取り組みしているんだよね...しみじみと感じながら作業していました。今月は「公的福祉保育拡充の柱」特集みたいになっています。ぜひ秋の運動のお供に風光を活用してくれるとうれしいです(にしょん)

【第61回目カルトクイズ 回答締切12月末まで】

- 第1問: 産別署名の正式名称は何?  
第2問: 生活保護裁判の最高裁判決での勝訴判決が出たのは何月何日?  
第3問: 11月の中央行動は何をテーマに交渉した?

応募方法:

QRコードのGoogleフォーム、FAX、Email(1面 参照)にて、回答と今月号を読んだ感想を記入してご応募ください。  
正解・不正解を問わず、応募者のメッセージを紙面に掲載し紹介します。

正解者のうち抽選で3名には  
1,000円分の図書カード  
を進呈します!

発表は1/8(木)はたびらきにて。



第27次 福祉予算削るな!福祉を金儲けにするな!

## 愛知県民集会 報告(天白福祉分会 香月)



天気にも恵まれ集会を開催  
10月26日(日)名古屋市・若宮広場にて福祉予算削るな!福祉を金儲けにするな!第27次愛知県民集会が開催されました。前日まで雨予報でしたが、当日は曇り空ながら雨は降らず、予定通り集会とパレードが実施されました。参加者は福祉保育労だけでなく、あい共連・共保連・きょうされんなどの団体や、公



リレートークでは  
星副委員長から報告

福祉の厳しい現状が次々と...  
集会のリレートークでは、はじめに生活保護裁判のうったえがあり、人権を蔑ろにする政府の対応の問題について話されました。そのあと自治体職員・保育・学童保育・障害・高齢など公共や福祉の現場から発言があり、「子どもたちにもう1人保育士を」「補助金削減で運営が困難」「人手不足で限界」といった切実な報告がありました。最後には

福祉は権利の声をあげよう  
今回の県民集会で特に印象に残ったのは、福祉が本来の「人のための制度」から離れ、法律の改悪によってビジネスの対象とされているという現状への強い問題提起でした。そのような中で、「みんなで『福祉は権利』の声を上げよう」という呼びかけがあり、まさにこの集会の主旨がそこに込められていると感じました。現場の声を集め、社会に訴えていくことの大切さを改めて実感し、これからも声を上げていきたいと思いました。

福祉保育労の星副委員長から「私たちは子どもたち、利用者、保護者に寄り添ったり、命を守っていく大切な仕事をしていることに誇りを持っています」「職場の人たちや福祉で働く仲間が集まって、少しでも『働き続けたい』と思える環境をみんなで作っていったら。」と現場からの発言をしました。

# 生活保護裁判に 가까わって

6月27日、最高裁判所は、国が生活保護の支給額を段階的に引き下げたことを違法だとする判決を下しました。「生活保護基準引き下げ反対愛知連絡会」の事務局に書記局の藤原佳子さんを送りだしています。「いのちのとりで裁判全国アクション」に関わってきた思いや、裁判の意義とこれらについて、「福祉のひろば9月号」への寄稿を元に報告をいただきました。

## ◆生保裁判は命と尊厳を守るたたかい

12年前の2013年、史上最大の生活保護基準の引き下げがおこなわれました。その前年には、お笑い芸人の親が保護費を受給していたことがマスコミで大きく報道され、バッシングをおこなう風潮が意図的につくられていました。同年おこなわれた衆議院選挙で、自民党は生活保護給付基準の1割削減を公約に掲げ政権復帰、その政策を最優先で実行したのです。巧妙にしくまれたこの動きに強い怒りを覚えました。

労としてこの運動に関わらないのはおかしいと思い、組合員に呼びかけ、裁判の傍聴、宣伝行動や学習会に参加しました。その後、「生活保護基準引き下げ反対愛知連絡会」の事務局にも加わり、原告のみなさんと接したり、組織に属さず運動に参加している市民アクティビストの方々の姿に、大きな刺激と学びを得ました。さらに、物価偽装の暴き手であるフリージャーナリストの白井康彦さんからは、引き下げの根拠のいい加減さを学び、怒りながら行動して今に至ります。ある原告の方は、結果ありきのこの仕組みがわかつたとき、「こんないい加減なことで、自分たちの命綱の保護費が削減されたのか。バカにするにもほどがある」と悔し涙を流されました。自身の人間の命と尊厳を守る闘いをやらない選択はありませんでした。

◆人権守る最高裁判決！しかし国の姿勢は…

原告や弁護士を支えることが、私たちのできることだと署名や宣伝行動などを地道に続けてきた末の、最高裁判決でした。名古屋高裁のように国家賠償までは認められませんでした。が、宇賀裁判長は個別意見で、「ゆがみ調整とデフレ調整の併用」について違法性を認め、かつ「国家賠償請求を認容すべき」との判断を示しました。

を削減され、食事の回数も減らし、人付き合っても制限せざるを得ないなか、闘いつづけてきた原告のみなさんの「いつ、減額された分を戻してもらえんだ！」の声は、切実な「いのちの叫び」そのものです。

ところが判決後、国は謝罪もせず、こともあろうか基準引き下げの検討を始めました。25年11月7日の臨時国会で、やっと高市総理が「お詫び」を口にしましたが、その夜の専門委員会での議論では引き下げのやり直しを諦めていませんでした。原告はもちろん、原告以外の生活保護利用者にも速やかにさかのぼり支給すべきです。

◆人権を支える福祉へ

2023年11月、名古屋高裁は画期的な判断を示しました。「健康で文化的な最低限度の生活」について、三度の食事ができているだけでなく、「基本的な栄養バランスの取れるような食事」や「孤立せずに親族間や地域において対人関係を持つた（中略）自分なりに何らかの楽しみとなることを行うなどが可能であることが必要」とし、はじめて社会的排除概念に基づく『今日的貧困観』に立脚して定義したのです。

最高裁での勝利と、名古屋高裁での判決が、すべての人にとってあたりまえになってほしいです。

福祉・保育など、あらゆる制度や政策の根底には人権があり、差別なく誰もが安心して生きていくのだと包摂される社会でなくてはなりません。判決を踏まえて、福祉現場のみなさんとともに、人権を意識した実践や制度・政策運動を積み重ねていきたいです。

〈書記局 藤原佳子〉



2023. 11. 28 名古屋高裁 勝訴判決

# 11・4中央行動報告

福祉保育労では、全国の仲間とともに、年3回ほど子ども家庭庁・厚生労働省との交渉（＝中央行動）を行っています。今回は11月4日に全国61名の参加で開催され、東海地本からも5名参加。福祉・保育職場の「賃上げ」の財源確保をせまり、交渉を行いました。

田村貴昭衆議院議員  
（日本共産党）



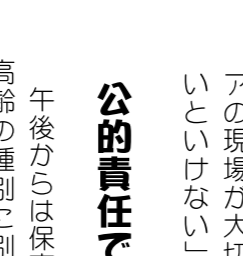
やはた愛衆議院議員  
（れいわ新選組）



福島みずほ参議院議員  
（社民党）



白川容子参議院議員  
（日本共産党）



## 「ケア労働者の賃金引き上げ」の声を国会の内・外側からあげていく

11・4中央行動の午前中は全政党に参加を呼びかけ、「福祉保育職場の賃上げ」についての政党懇談会を実施しました。政党で参加があったのは、れいわ新選組、日本共産党、社民党の3党でした。参加したどの政党も「ケアの現場が大切にされないといけない」というこ

うとは共通の話題としてありました。各地方の賃上げをのぞく現場の声を届けました。現場の切実な状況を伝え、やはた議員からは「ケアの現場に予算をしつかり投入していくように臨時国会でもつたえていく」と発言がありました。白川議員からは「公定価格

## 公的責任での賃上げをめざし省庁交渉と団体要請

午後からは保育・障害・高齢の種別に別れての交渉でした。どの分野も今回は「賃上げ」の財源確保をめざしての交渉となりました。

保育分野では、人勧引き上げ分が配置基準より手厚く配置しているため「うすまき」になっている

こと、処遇改善―が経験年数11年目までしかみられていないため昇給財源もないことを訴えました。こども家庭庁からは、財政の確保問題があるとしつつも、同じ課題を感じていることがわかり、交渉で積み重ねる大切さを実感しました。

## 実践も働き方も交流しよう！ 保育種別協議会(保育協)



## ～仲間がいるってうれしいね～

（保育協（保育種別協議会の略称）は、東海地本の保育分野の分会から幹事を送りだしてもらい、第2火曜日の19時から定例で幹事会を行っています。「報告を聞く」会議ではなく、「こんな実践がしたい！」や「こんな働き方になりたい！」など交流し、そのなかから出てくる制度の問題を夏の自治体交渉につなげていきたいと考えています。特に26年度は幹事の顔がわかり、つながり、交流しやすいような会議運営をめざしています。参加した幹事さんが残り残されず、「たくさん語り合えた」となるようにしていきたいです。

報告＆撮影 保育協議長 北田遙香



全国町村会に要請と懇談。  
（写真左 民谷中央副委員長）

高齡分野では、処遇改善が実態にあっていない、最賃対応もできていない問題について話し、障害分野では福祉人材確保指針や骨格提言にもとづいて「職員処遇の改善」をせまりましたが、いずれの担当課も「貴重な意見

ありがとうございます」としながらも、担当課の若手職員の対応にとまっています。

最後のまとめの集会で、島村中央副委員長から「今なお、処遇改善加算が継続されているのは、私たちが声を上げ続けたからこそ。政令指定都市の市長会懇談もしてきたが、地方からの困っている声が届いていた。地方と中央、みんなの力をあわせ、たたかいてすすめていこう」と呼びかけがありました。東海地本も引き続き、国・自治体へと声をあげていきましょう。